

乳幼児期・学齢期準備会意見まとめ

「グループ A」の主な意見（チラシ表面に反映）

コンセプト

早期療育はどうあるべきかの課題を意識してはどうか。
 「発見」を促し「安心」につなげるようなものはどうか。

配布先はどこか意識する

- ・保健福祉センター（気になるときに相談したい）
- ・保育園、幼稚園等（幼児期にお知らせしたい）

配置

- ・最初は気軽に相談するところ⇒だんだん「支援」につながる形

イラスト

- ・安心できるイメージのイラストを使用

紹介内容

相談機関の紹介だけでは、自分がどこに該当するかわからない。相談機関はどんなことに対応するのか、少しわかるようなものがよい。

目を引く言葉【キーワード】

「ひとりで悩んでいないで相談しましょう」
 「心配しないで相談しましょう」
 「心配になったら相談してください」
 「ひとりひとり違っていいんだよ」
 「成長がゆっくり・・・」

気になる言葉【キーワード】

言葉の遅れ　　落ち着きがない　　好き嫌いが激しい
 ほかの子と遊べない　　人でなく者に関心がある　　人に対して不安がある　　×発達凸凹

相談に乗ってくれる身近な人（例）

- ・保健師
- ・保育士
- ・特別支援コーディネーター（学校）
- ・医療福祉センター
- ・相談に乗ってくれる小児科（市内にいくつかある）
- ・自閉症協会ほか親の会
- ・子ども・若者相談センターも相談に乗ります

乳幼児期・学齢期準備会意見まとめ

「グループB」の主な意見（チラシ裏面に反映）

配布場所

チラシに掲載予定の「保健福祉センター」「きらり」「いこいの家」「うみのこセンター」「こども園」「幼稚園」「保育園」で配布するだけでは意味がない。そういった窓口に行ったことがない人も対象とすべき。たとえば、各区役所で配布できるとよい。

簡素化を意識する

窓口がわかりにくいという声はあるが、実際には子育てパンフレットやちやむ（市のHP）には窓口が紹介されてある。ただ書いてあるだけでは読まれないため、情報へ簡単にアクセスできなければならない。たとえば、冷蔵庫に張り付けてぱっと目に入るような作りがほしい。

レイアウト

フローチャート型にすると多岐にわたるためチラシ一枚で紹介しきれない。グループピングの方がよい。「窓口ありきのチラシ」ではなく「困ったときにどこへ相談すればよいのか」がわかるチラシがほしい。

言葉使い

「おくれ」という言葉は使わない。
発達障害かどうかわからないのは「グレーゾーン」ではなく「パステル」

紹介内容

札幌市の発達障害子育て支援のチラシのように、各施設でどんなサービスを受けられるのか端的に一文であらわされているとわかりやすい。子育てハンドブックを参考にしてもよい。

悩みの内容

- 「育児・子育てに不安のある方」
 - 保健センター・家庭児童相談所（子育て支援課）
- 「子どもの発達に不安がある」
 - 保健センター・きらり
- 「ママ友がほしい」
 - おしゃべりサロン、子育て支援センター、（社協）子育てトーク
- 「入園に困ったら」
 - 子育て支援課
- 「学校（就学）に困ったら」
 - 所属園、特別教育支援センター
- 「発達について医師の診断を受けたい」
 - かかりつけ小児科医から専門の病院へ
- 「言葉や発達が気になったら」
 - 特別支援教育センター、お近くの幼児言語教室

